

# JWFファンド2019 実施概要

## 4. パプアニューギニア

- 団体: Morobe Development Foundation Inc. (MDF) (#255)
- 期間: 2019年9月~2020年3月
- 実施地: パプアニューギニア、モロベ州
- 費用: 1,717.36 ドル (JWFファンド990ドル、受益者27.36ドル、実施団体700ドル)
- 受益者数: 800人 (小学校児童300人、村人500人)
- 実施地の水問題:  
ラバビア村は、フオン県の南沿岸サラムアラ地区にある最大の村。風の発生頻度が高く、台風による雨は大洪水をもたらす。2016年、強い台風に襲われ、飲み水や生活用水の水源地といった地域の環境が荒廃した。それ以来、村人はボートで2時間かけて、毎日水を汲みに行かなければならなかった。水へのアクセスが非常に制限されているために公衆衛生を保つことができず、下痢、腸チフス、マラリア、コレラなどの病気が発生していた。2016年には、村で土砂崩れと洪水が発生し、村の給水システムだけでなく、畑や自然の動植物も被害を受けた。  
政府による給水施設設置の支援や、村のコミュニティスクールへの支援は行われておらず、子どもたちが安全な水を利用できるように給水施設を建設する必要があった。
- 主な活動内容:  
地区の保健職員による活動計画のワークショップ、啓発と教育活動・地区の保健職員による水と衛生に関するトレーニング、水質検査、ハンドポンプ1基導入、維持管理に関するトレーニング、コミュニティ主導の監視体制構築



錆により故障したハンドポンプ



ポンプ設置工事

# JWFファンド2019 フォローアップ結果

## 4.パプアニューギニア

2021年3月現在

### 【現状】

- **ハンドポンプ**…嵐で周囲の柵が破損したが、年間を通じて安全な水を得られている。
- **維持管理**…使用方法のトレーニングを受けた地域住民たちは、利用者が正しくハンドポンプを使用しているか監督している。

### 【効果】

- **病気の減少**…汚染された水に起因する病気の減少を住民たちが実感している。
- **衛生習慣**…2019年のプロジェクトで衛生の重要性を伝えていたため、COVID-19対策の手洗いや距離を保つことなどが抵抗なく受け入れられた。

### 【変化】

- **使用用途のルール化**…井戸の近くで洗濯する住民がいることに苦情が寄せられ、洗濯は川ですること、飲み水と料理用にハンドポンプの水を使うことが地域のルールに新たに加えられた。
- **地域リーダーの役割**…地域の集まりの後など、若者たちにハンドポンプの手入れをすること、日々の生活に必要な水の大切さを伝えていた。



# JWFファンド2019 フォローアップ結果

## 4. パプアニューギニア

2021年3月現在

### 現場からの声 (抜粋)



David Tomさん  
(50歳、地域のリーダー)

プロジェクト完了後、住民たちの衛生習慣が改善されました。以前はお風呂に何日も入らなかった住民たちがお風呂に入るようになったり、ハンドポンプの水を料理に使うようになったりしました。

また、薬をラエ(モロベ州の州都)までもらいに行く人の数が減ったように思います。MDFと地区の保健職員による水と衛生に関するトレーニング等のおかげで、人々は生活維持のために水の使用が非常に重要であると認識するようになりました。



Sarah Wijiさん  
(36歳、ハンドポンプの利用者)

設置されたハンドポンプを毎日使っています。遠くまで水を汲みに行く必要が無くなったので楽になりました。  
プロジェクト完了後、私の家族は下痢症などにかかっていません。幼い弟たちも元気に育っています。



Moris Bewaさん  
(60歳、WASHトレーニングの参加者)

年を取り、長い距離を歩くのは大変です。ハンドポンプのおかげでとても助かっています。  
私たち家族は健康で、ラエに薬をもらいに行くことはとても少なくなりました。この村には医療センターがないので、助かります。  
手洗いや毎日の洗濯は、健康的な生活を送るために重要です。